

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年11月19日

【評価実施概要】

事業所番号	4070702818
法人名	株式会社 シダー
事業所名	あおぞらの里 グループホーム黒崎
所在地 (電話番号)	北九州市八幡西区黒崎4丁目4番8号 レーベント黒崎 2階 (電話) 093-645-1612
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成19年9月25日

【情報提供票より】(平成 19年 8月 26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 11月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	14 人
利用定員数計	9 人
常勤	3人, 非常勤 11人, 常勤換算 5.98人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	新築 <input checked="" type="radio"/> 改築 <input type="radio"/>
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	7 階建ての	2 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費	有	
敷金	有(円)	無 <input checked="" type="radio"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 <input checked="" type="radio"/> 300,000 円	有りの場合 償却の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,575 円			

(4) 利用者の概要(8月 26日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低 80 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福岡新水巻病院、尾畑外科胃腸科医院、原田歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

黒崎駅から徒歩5分、新築マンションの2階にホームがあり、他のマンション住民とは入口が別になっている。緑の少ない街中で入口にはコンテナガーデンや季節の野の花をあしらった生け花が置かれており、季節感や華やぎを感じさせる工夫をしている。日々のモニタリング記録や、丹念な家族への報告等、利用者・家族・職員が「その人らしい暮らしの継続」を目標にチームでケアの取り組む姿勢がうかがえるホームである。また、週1回、作業療法士の資格を持った職員が勤務しており、介助方法やリハビリ方法、福祉用具等のアドバイスをし、生活の中に残存能力を活かしたりリハビリを取り入れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を活かし、運営推進会議後に交流会を開催し、地域との関係強化を図ったり、プランの作成・実践においては、日々の個別記録にもプランに対する評価を記録する事により、職員全員が共通認識を持ってケアにあたるように取り組んでいる。薬アルバム作成やその他の事項についてもできることから改善に取り組んでいる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己評価に対する意義を理解しているが、勤務等の関係で全職員で自己評価に関わっていない。次回については、全職員で自己評価に取り組み、その意義と活用を期待したい。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者全員、家族、職員全員、町内会長、町内の方々、地域包括支援センター職員、消防関係者等の参加を得て2ヶ月に1回開催しており、ホームの状況説明や運営・防災に関しての貴重な意見を提案いただいている。また、会議後には交流会を開催し、ホームへの理解を深めてもらうようにしている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族が訪問時には積極的に会話をもち、意見や苦情が言える雰囲気づくりを心がけている。毎月のお便りに個別の近況報告(一ヶ月の状況やプランの評価、対応策等)を同封し、それについての返信を導入し、家族の意見や苦情等を運営やプランに反映させる取り組みをしている。
重点項目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域行事(敬老会、盆踊り、黒崎祇園祭り等)に利用者・家族と共に参加したり、買物や散歩の時に挨拶を交わす中で、日常の暮らしにある当たり前の近所づきあいを心がけている。ホームでも納涼祭など、気軽に訪ねてもらえる企画を検討している。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から、その人らしい生活の継続を目標に「寄り添う」「利用者が主人公」という事を重視した事業所独自の理念を作り上げている。	○	ホームは地域との関係づくりに熱心に取り組んでいるが、理念に「地域の中での暮らし」についての文言が無い。制度改正により、理念そのものに地域密着型サービスの役割を目指した内容が求められており、現状にあった理念に作り変えていく事が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念についての勉強会を行い、職員の一人ひとりが理念に基づいて年間の目標をたて、リビング掲示板に掲げ理念の実践に向け日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議や会議後の交流会開催等にて、町内の方々と歓談したり、敬老会や盆踊り、黒崎祇園等地域の行事に利用者、家族も参加し、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成では全職員ですべての項目を検討するまでには至っていないが、評価の一連の作業の中で気づきや改善点を明確にし、サービスの質の向上にむけた目標を立てる体制ができています。昨年の評価を元に改善に取り組み、成果をあげている。	○	管理者は評価の意義を理解し、熱心に改善に取り組んでいる。自己評価を職員全員で取り組む事により、ホーム全体でケアを振り返り、質の向上に向けた実質的取り組みとなる事を期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者全員、職員全員、家族、町内会の方々、地域包括支援センター職員、消防関係者等の参加を得、評価結果やホームの現状報告をし、参加者からは意見や希望をひきだし、職員会議にて更なる検討を重ねサービス向上に生かしている。また、会議後は交流会を開催し、地域との関係作りにも努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得たり、市民センター行事(敬老会等)に参加している。	○	市町村担当窓口に対して、評価結果やホームの実情、ケアサービスの取り組みを折りに触れ伝え、顔の見える関係作りをし、担当者との協働で課題解決を図っていく取り組みを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、理解を深めるようにしている。利用者、家族にも必要に応じ、制度、手続き等について説明し、相談に応じる体制ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、1ヶ月の様子を写真入りで掲載した便りと担当職員が個別に利用者の一ヶ月の状況やプランの評価、対応策等を記入したものを送付し報告している。また、家族訪問時にも暮らしぶりを積極的に報告し、金銭管理についても月毎に確認していただいている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議と家族会を交互に月毎開催し、質問や意見、提案を発言してもらっている。また、毎月のお便りに、近況報告への返信を導入するなど、家族の声に耳を傾け、運営に反映させる取り組みをしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職に対する利用者・家族の思いや苦情は、ただちに本社に伝え、必要最小限に抑える努力をしている。また、代わる場合は初対面での触れ合いの機会を大切にし、また、新しい職員が、利用者・家族とのコミュニケーションを大切にし、より良い関係作りができるように支援をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用については年齢や性別で排除することはなく、面接は管理者が行い、その後何回か体験勤務をし、双方納得の上で、採用となる。各々の職員は働き甲斐を持ち、生き生きと勤務している。休暇も取りやすく、社会参加や自己実現の権利が保証されるよう配慮されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	「高齢者の尊厳保持」「プライバシー保護」を念頭に、サービス内容・接遇等研修を行ったり、全体ミーティングやカンファレンスでは細かい対応について討議している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、2ヶ月に一度全職員参加の勉強会の時間を設けている。外部の勉強会や研修にも参加し、介護福祉士等資格取得を目指す職員には情報の提供や本社にて受験対策の指導を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に所属し、研修を通して交流を深め、相互訪問をしたり、情報提供を行なってお互いに質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームに馴染んでもらい、安心してサービスを受けていただくために、事前に訪問してもらい、入居者一人ひとりに紹介し、ホームの雰囲気を体験いただくようにしている。また、必要時には自宅訪問や入居前の病院・施設を訪問し情報を得るように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりが得意としていることでは、職員が教わることもある。生活の動作、家事等の中でも、できる事を探し、一緒に行なうことで、できた事を一緒に喜べる事を大切に、職員は学び共に支えあっている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示の難しい利用者に対しては、家族からの情報を積極的に取り入れたり、個々の家族との面会で交わされる会話などから利用者の思いを汲み取り、本人主体の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の要望を尊重し、必要に応じて主治医や看護師、作業療法士との連携を密にして、職員全員が共通認識を持ってセンター方式で、利用者本位の介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に1回の見直しを行なっているが、見直し前の状況変化などには細かく状況を検討し、利用者、家族の参加(意思の確認)のもと、現状に見合った計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域での行事(敬老会、盆踊り、たこ焼き大会など)には、家族の要望などを聞き取り積極的に参加し、地域との連携を深めている。利用者の馴染みの理美容の利用の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前の受診状況を把握し、いままでのかかりつけ医や事業所の協力医等、本人・家族が希望し同意した医療機関に受診できるように支援している。受診に家族が同行できない場合には代わって対応しており、かかりつけ医との情報のやりとりを通して関係づくりに努め、受診結果に関する情報を家族と共有するようにしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期対応の経験がないということで、初期段階の話し合いができていない。利用者、家族の意思確認は現時点では十分に把握できていないが、家族会や面会の時には、個別に話をするように努めている。	○	重度化や終末期の対応は、個々の利用者、家族の意向を重視し、医師や関係者達を交えた話し合いを持ち、早期にホームの具体的な対応策を作成し、急変時に利用者や家族が安心した日々が送れるように職員全体で支援できる体制が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の暮らしの中で、目立たずさりげない声かけや対応、尊敬の心で接している。職員間で気づきを指摘し合える環境作りに努めており、記録や個人情報などの取り扱いについても十分配慮し、事務室で安全に保管、管理されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の時間経過の基本的な流れはあるが、利用者個人の日々の過ごし方を尊重(食事時間、押し花絵作り、テレビ観賞、外出など)した支援を行なっている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常は昼・夕ともに配食サービスを利用しているが、月に数回実施する食事作りの日のメニューは利用者と相談しながら決めている。調理や配膳を共に行き、できる力を発揮できる場面を作っている。職員は同じテーブルに付き、和やかな雰囲気となるよう個々の利用者に声かけしつつ食事のサポートに徹しており、一緒に同じ食事を味わうことはされていない。	○	食事は利用者にとって暮らしの全体の中でも重要な位置にあり、「一緒に過ごし喜怒哀楽を共にする関係」作りにおいても、重要な要素である。介助する一方にではなく、利用者と職員が同じ物を一緒に食べる取り組みを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、2日に1回の入浴を実施しているが、必ずしも利用者の望む夕方の時間の確保が職員配置の都合で実施できにくい状態である。隣接のデイサービスの温泉浴を利用したりして入浴を楽しむ工夫をしている。利用者の要望に応えられるように職員の配置などの検討を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居後に始めたという「押し花絵」の作品作りに熱心に取り組まれている方やお茶のたのしみを職員に教える方、台所で茶碗拭き等職員の手伝いをする方等、個々の楽しみや役割を見出し、果たせるよう支援している。地域のお祭り等にも利用者全員で参加し、気晴らしとなるよう支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、近くを散歩したり、利用者の希望を聞き、買物に同行している。また、利用以前に暮らしていた地域に出かけ、馴染みの店や場所への訪問外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が「鍵をかけないケア」の意義を理解しており、全居室、玄関などの施錠は行っていない。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者と共に、年2回消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。家族、町内会、隣接のマンション管理人、職員と災害対策についての会議を行なって協力体制を作っている。連絡網は調理場の入口の見やすい場所に掲示している。職員会議などでも避難経路や器具などの再確認に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の食事摂取状況や水分補給の状況を日々観察し、詳細に記録する事で栄養バランス、水分量の確保ができる支援を行なっている。水分を取らない人には、ティタイムを利用してゼリーやシャーベット、フルーツなどで対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の鉢植えや生け花が飾られて”ほっ”とする空間がある。リビングにはクリーム色のソファが置かれ、手作りの解りやすいカレンダーが貼ってあり、強い日差し窓にはカーテンをし、柔らかな日差しが差し込むように配置している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個々の居室には、利用者の使い慣れたタンスや、置物、家族の写真、手作りの作品などがあり、生活の継続された空間が見られた。家族にも季節を通しての衣替えや、模様替えに参加していただいて、利用者が安心して暮らせる環境づくりに努めている。</p>		